



# 駒澤会だより

第30号

平成30年12月14日

駒澤大学駒澤会発行

## 時は流れない

総長 池田魯参  
(駒澤会名誉会長)



駒澤会の皆様には、お子様を本学で卒業させた後幾歳月を経ても、変わることなく引き続き本学をご愛顧下さり、本学の将来の発展に期待をお寄せ頂き、種々ご配慮お力添えを賜わっておりますこと誠に有難く、教職員一同衷心より感謝申し上げますお礼申し上げます。

本年度駒澤会は発足から47年を数え、「駒澤会だより」も発行第30号の節目を迎えたとのこと、大変嬉しく存じます。代々の委員の方々のご苦勞のたまものに他ならず、会員の皆様共々心からお慶び申し上げます。

顧みれば、私も名誉会長として、2月の新年賀詞交歓会、5月の委員総会、11月の秋の研修会等で、親しく皆様にお目にかかる機会を得ていますが、その度ごとに会員の方々が和気あいあいとなごんでおられ、駒澤会に参加することを心から楽しんでおられる様子を拝見して、他では代え難い本会の魅力とはこういうところにあるのだろうと一人で得心していたことです。

吾が道元禅師は、名著『しょうぼうげんぞう正法眼蔵』うじ「有時（ある・とき）」の巻で、こんなことを語っておられます。

時は飛去するとのみ解会すべからず。(中略) 有時にきょうりやく経歴のくどく功德あり。いはゆる今日より明日へ経歴す、今日より昨日に経歴す、昨日より今日へ経歴す。

古文ですので意識すると、時は流れ去るものとばかり考えてはいけません。「ある・とき」には経歴するはたらきがある。それは今日から明日へ、今日から昨日に、昨日から今日へというふう<sup>に</sup>に経歴するからだ、というのです。

経歴という語が解りにくいので、校注者の水野弥穂子先生は、この語に「時は飛去しないが、ひき続いてゆくはたらきがある」と脚注(岩波文庫本二巻50頁)を付けています。

確かに、人の一生の限られた時間を流れ去るものとばかり考えたのではさみしいですね。そうじゃないでしょうと道元禅師は語りかけます。若葉が薫る新緑の山に登った時の私、紅葉する溪谷に分け入った時の私、雪に埋もれた山あいの温泉につかった時の私等々、その時々には私だったわけで、私のその時その時は消え去ることなく、今の私に鮮明によみがえるであろう、といわれるのです。

こういう時の意義を忘れないようにして、そっこんとうじょ即今当处(いま・ここ)で成すべきことを堅実に言動し、後に続く人たちのために少しでも善いものを遺していくよう励みたいものと心している、この頃の私です。

## 平成30年度 駒澤会奨学金授与式について

平成30年7月11日、平成30年度「駒澤会奨学金」授与式が、種月館9階の教室にて、長谷部学長、猿山副学長、森屋会長、荒井広報部長がご出席されるなか執り行われました。

当日は授与式に出席した受給生に対し、森屋会長より一人ひとりにそれぞれ駒澤会奨学金採用決定通知書が手渡されました。

採用された学生を代表して、以下3名の方よりコメントをいただきましたので、ぜひご覧ください。

【駒澤会事務局】



【受給生の皆さん】



法学部法律学科フレックスA 2年

吉田 沙南（よしだ さな）さん

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度の努力が報われ、このような形で勉学の取り組みを評価していただけたことを大変光栄に思います。駒澤会の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、大学受験で目標としていた結果を残すことができず、受験期を支えてくださったすべての方々に対して申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そのとき、「これで将来が決まったわけじゃない。大学で頑張って、夢を叶えればいい。夢を叶えて、不合格だった大学に行った人たちを見返せ。」と家族が励ましてくれました。私は、この言葉で前を向くことができ、大学で夢に向かって学業に励むことを決意しました。

大学では、自分が興味を抱いていた法律学だけでなく、教養分野など、自分を高められる学びをすることができています。駒澤大学でなければ学ぶことができなかった仏教についても深く学び、坐禅など貴重な体験をすることもできました。私は、さらに、大学での学びだけでなく、将来のために多くの資格を取得したいと考えています。大学で学ぶための費用は決して安いものではなく、親には感謝してもしきれません。アルバイトによって補える費用はごくわずかのため、この度、奨学金を受給させていただけることになり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このような機会をいただけたことに感謝し、この奨学金を将来のための必要経費に充て、勉学に一層励み、夢を実現させたいと思います。

私は、周りの全ての人に支えられながら勉学に励むことができています。そのことを決して忘れず、周りの人に感謝の気持ちをもって、これからも夢に向かって努力していきます。この度は本当にありがとうございました。

## 経営学部市場戦略学科3年



### 前田千咲（まえだちさき）さん

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度までの学業成績をこのような形で評価していただいたこと、駒澤会の皆様には心から御礼申し上げます。

私は現在学部3年生ですが23歳です。高校卒業後は専門学校へと進学し、美容に関する様々な知識や技術を学びました。そこで私は、技術やコネクションだけで生きていくことの大変さと、自分自身の世間に対する教養のなさを実感し、大学に行く意義を見出し、専門学校卒業後に駒澤大学へと進学しました。大学の授業は大変面白く、学べば学ぶほどもっと学びたいという気持ちになりました。今は経営の学習だけで精一杯ですが、大学に進学したことによって経営だけでなく経済や法律、語学についてもっと基礎から学習したいという気持ちになりました。とは言え学びとは贅沢な物で、学び続けることにはお金が必要です。そんな中で、この駒澤会の奨学金を頂けたことは大変喜ばしいことでした。

私は昔からよく、ひとつのことだけを徹底的にやり続け、周りが見えなくなってしまうことがありました。また、コンプレックスも強かったため酷く自分に自信がなく、周囲に迷惑ばかりを掛けてきました。しかしそんな中でも私を見捨てずに、支えてくれていた人が沢山いました。両親や先生、その他たくさんの人々への本当の意味での感謝を、今この年になってようやく気付くことが出来た気がします。

私のモットーは「満足したらそこで終わり」ということです。私のゴールは大学を卒業することでも就職することでもありません。そこでなにか成果を残すことでもありません。それで終わりたくないのです。常に今よりも良いものを、常により良い社会を追い求めていく生き方をしようと思います。そしていつか、私の求めた社会が創造され、私を支えてくれた多くの人々の幸せな生活に繋がれば、その時は少し満足しようかなと思います。

最後に、これを機にさらに勉学に打ち込む意識を高め、気を引き締めて学生生活を送ることをお約束し、感謝の言葉とさせていただきます。



【決定通知書を手渡す森屋会長】



【長谷部学長の挨拶】



仏教学部仏教学科4年

## 栗木 亮学（くりき りょうがく）さん

駒澤大学に入学したことによって切り取られた、入学式と今現在との2点間の距離である、この4年という時間が私に与えた本質的な変化は、私の知識ではなく、私の認識でした。

ソクラテス哲学に「無知の知」と呼ばれる概念があります。これは、「私が知らないことを、私は知っていると思わない」というように、自らの無知を自覚する考え方を指します。大学での勉学は真にこれを実感するものでした。私の専攻する仏教学では、その歴史の長さ故か、その内容の複雑さ故か、取り組めば取り組むほどに、自分の無知を思い知る瞬間が訪れます。ある一点に絞って研究してみても、連関する文献を辿り続けると、そこには入り組んだ深淵が広がっていて、その深淵と意識的に対峙しようとするれば、忽ち私は自分の無知を実感させられるのです。しかし、そうして無知を実感する度に、私の中に広がるのは、失望の類ではなく、むしろ好ましく感じられるものでした。

無知は知があることで成立します。この知とは一体何かと言えば、私は他者が所有する認識であると考えます。諸文献に取り組む時に、そこに書かれているのは、当然ながら他者(筆者)の認識(考え)です。このように知を定義すると、無知の知とは、他人の認識に対して知らないということを知っている状態を指します。しかし、拡大解釈を恐れずに言えば、無知の知には、他者の認識に関して、それが分からないと認識しながらも、それを分かろうとする態度が含意されていると私は感じるのです。その態度を勉学によって実感できたことによって、私は無知に失望することなく、むしろそれを歓迎できたのかもしれない。このような、自分・他者に対する認識の変化こそ、私がこの4年間で本質的に得た、唯一にして重大な財産だと感じるので。

最後になりましたが、この度、駒澤会奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。この誇りを胸に今後も精進して参りたいです。

### 【特別企画】

### 駒澤会奨学金受給学生の今…。

駒澤大学教育振興部・日幡亮二

私が駒澤会の奨学金を受給したのは、今から18年前になるのでしょうか？当時、経営学部経営学科の3年生だった私ですが、実は2年生のときにも申請しており、そのときは見事に落選したという苦い経験もありました(笑)ですが、そのことがもしかすると「来年こそは！」と気持ちを奮い立たせ、勉学に励めた要因になったのかもしれない。

2度目の申請においてありがたくこの奨学金の受給生として認められ、20万円もの大金をいただきました。いただいた奨学金は、当時は今以上にはるかに高額だったノートPCの購入資金に充てたことをよく覚えています。そのおかげで授業のレポートも、4年時のゼミ論文も作成しましたので、この奨学金の目的である「学業奨励」に大いに活用させていただいたと、今でも感謝しております。

駒澤大学とは大きな縁がありまして、卒業後は大学職員として勤めることになり、今に至っております。今こうして駒澤会の事務局を担当しておりますのも、縁ですね。



駒澤会「初夏の親睦会」に参加して

駒澤会広報部 山本 久美子



平成30年6月9日(土)に駒澤会「初夏の親睦会」が、駒沢キャンパスで開催されました。午後12:30に集合したのち、駒澤大学開校130周年記念棟1階にある「Kitchen 駒膳」にて昼食。以前からの「銀座スエヒロ」の学食に、新たに讃岐うどんの「丸亀製麺」、ベーカリー「ヴィ・ド・フランス」も加わり品数も増え、綺麗で広々とした食堂で、各自好きなメニューをいただきました。

午後1:30から駒澤会担当の日幡さんの案内で、駒澤大学開校130周年記念棟「種月館」内覧ツアーが行われました。「種月館」の名称は、禅語の「耕雲種月」から採り、「耕雲館(禅文化歴史博物館)」に隣り合う新館に「種月」の名を冠することで、あらためて大学文化としての禅文化を受け止め、大いに学修や研究、業務に励む場として欲しいとの意味が込められているそうです。「種月館」は、地下1階地上9階建てで機能的な教場はもちろん、多目的ホール(種月ホール)、食堂、総合情報センター、リニアック室、自習室、各階ラウンジ、空のテラスと学生にとって、学びの場・学生生活の憩いの場としては、最高の環境だと感じました。居心地が良いのか、多くの学生達が、自習室で勉強し、ラウンジでくつろいでいる姿を目にしました。また2階から9階までのエスカレーターそばの柱には、各階ごとに色分けがされています。目に見えるものや形づくられたもの全ては、時々刻々と変化するものであり、全ての物や現象の根源は「空」とであるとされる仏教の教えを空の色の変化で表現。2階から9階までの色の変化を体験してみたいかがでしょうか。

午後2時からは、医療健康学部による「最新放射線治療器リニアック」のがん治療の様子をスライドで拝見しました。悪性腫瘍の部分に放射線を体の外からピンポイントで照射する優れた治療機器でした。これから多くの高い技術をもった診療放射線技師が駒澤大学から育っていくことを期待しています。

午後3時からは、坐禅堂で坐禅体験をさせていただきました。短い時間でしたが、自分と向き合えた時間は、貴重なひとときでした。最後に図書館の見学をさせていただきました。駒沢キャンパスでの親睦会終了後、深沢キャンパス日本館で食事会も行われました。

企画された厚生部の皆様、楽しく有意義な時間をありがとうございました。



【リニアック VR 体験】



【坐禅体験】

## 教育後援会との懇親会について

平成30年8月23日、「教育後援会と駒澤会の懇親会」が新橋の老舗中華料理店「新橋亭新館」にて開催されました。教育後援会からは、平島会長をはじめ7名の方々が、駒澤会からは総勢21名が出席し、盛大に有意義な時間を過ごすことができました。

当日本会に参加された駒澤会総務部・軽部副部長と、同じく教育後援会・酒井副会長の声をどうぞ！

「教育後援会との懇親会」に参加して

駒澤会総務部副部長 軽部 雅美



平成30年8月23日(木)19時より新橋にあります「新橋亭」にて親睦会がありました。教育後援会からは、会長はじめ7名の方が参加していただき、駒澤会より21名・事務局2名、合計30名にて親睦会を行うことができました。

まず、駒澤会・森屋会長からのご挨拶、次に教育後援会・平島会長からのご挨拶、駒澤会・一戸副会長の乾杯で始まりました。

懇親会は、会食しながら、参加された方々の紹介やご挨拶もあり終始楽しい会でした。

近年、駒澤会に入会して頂ける方が、少数ではございますが増えています。

この懇親会が、教育後援会の方々に、駒澤会の様子を少しでも理解して頂ける場になれば幸いです。

最後に、平島会長より10月13日(土)に開催されます箱根駅伝予選会時、教育後援会の方々と一緒に応援しましょう！とお誘いいただきましてとても嬉しく思いました。

これからも、教育後援会と駒澤会とで、お互い手を取り合いながら駒澤大学の学生たちに支援していけたらと思いました。

お忙しい中、参加して頂きました教育後援会の皆様に御礼申し上げます。



【新橋「新橋亭」さん】

「教育後援会との懇親会」に参加して  
教育後援会副会長 酒井 一 浩



平成 30 年 8 月 23 日に開催されました教育後援会と駒澤会の懇親会に参加させていただきました。

初めて参加する私にとって、駒澤会の皆様はあたたかく、また優しく迎えていただき、楽しいひと時を過ごすことができました。お話をさせていただくと、研修会や会員同士の交流活動等精力的に活動し、また、それを楽しんでいることがよくわかりました。楽しんで活動するって大切なことですよね。私も、今まで以上に教育後援会活動のみならず、様々なことに対し積極的に、また楽しんで取り組んでいこうとあらためて認識させていただきました。

駒澤会の皆様とお会いできたことを感謝するとともに、駒澤会の益々のご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。



【森屋駒澤会会長の挨拶】



【平島教育後援会会長の挨拶】



【広報部の活動をPR】



【記念の集合写真】

## 第50回箱根駅伝予選会応援！

「箱根駅伝予選会」にて  
駒澤会総務部部長 山田直重



来年1月2日・3日に開催される第95回箱根駅伝記念大会は、前回大会10位以内のシード校と予選会突破の11校および記念大会で採用される関東インカレ枠の日本大学が参加し、この22校で争われます。駒澤大学チームは今年正月の箱根駅伝でシード権を逃したため10月13日に立川市にある国営昭和記念公園で行われる予選会から出場して来年正月の箱根駅伝を目指す事となりました。

遡ること2009年10月に駒澤大学が同様に予選会から参加となった時も昭和記念公園に応援に駆けつけていたため今回も応援に行く予定にしておりました。9月も半ばを過ぎた頃、駒澤大学教育後援会の平島会長さんのご意向から「駒澤会の方々も一緒に応援をしませんか。」とお誘いがあり、駒澤会から6名が昭和記念公園へ応援に出掛けました。当日朝は昭和記念公園立川口前で教育後援会の方々とも合流し、陸上自衛隊立川駐屯地内のスタート地点に移動し9時35分のスタートを待ちました。スタートラインに立つのは関東一円39大学から参加した400人を超える選手達です。スタート後は立川駐屯地、立川市街地、昭和記念公園を巡るハーフマラソンコースでタイムを競います。各校タイムの良い選手10名の合計タイムで順位が決まるためチームの総合力が大いに影響します。駒澤大学チームは選手層の厚さもありチーム10番目の選手のタイムが全体で29位となる好成績で予選会1位となり2位の順天堂大学に7分の差をつけ箱根駅伝出場を決めました。

しかし、予選会では「王者駒澤」と言われた走りを見せた選手達でしたが、箱根駅伝では2013年の復路を最後に優勝から遠ざかり、学生三大駅伝での優勝は2014年の全日本大学駅伝での優勝が最後となっております。今年も過去に箱根駅伝を走った選手が二人もマラソンの日本記録を更新しました。久しぶりに陸上競技の長距離界が注目を集めております。日ごろ練習に励む選手達に、この先駒澤大学チームで走って優勝する栄光が与えられる、また駒澤大学で練習を重ねた選手がマラソンの日本記録を更新する日が訪れる事を願って、これからも声援を送り続けたいと思っております。





## 駒澤会「秋の研修会」

### 「秋の研修会」報告

駒澤会厚生部部長 滝沢憲示



11月10日(土)・11日(日)、駒澤会「秋の研修会」を行いました。

10日、11時に京王線高尾山口駅に集合した頃には、紅葉シーズンということもあり、駅前には多くの観光客でいっぱいでした。高尾山駅へはケーブルカーで移動。38.2度の傾斜角度はケーブルカーでは日本一だそうです。大きな杉等の木立の間の道を約30分歩き薬王院へ到着しました。

薬王院では、全員で本堂に入り、護摩祈祷に参列しました。私達は、駒澤会の益々の発展を祈念して「開運」の護摩祈祷をして頂きました。法螺貝の音と共に多くの僧侶の方が入場され、護摩木を焚いて御祈祷頂いた様子は荘厳な感じがしました。その後場所を移動して、精進料理の昼食を頂きました。テーブルに並べられた御膳の横には、席毎に異なる言葉を書いたカードが置いてあり、私が坐った席には「切磋」のカードが置いてありました。薬王院の精進料理は、見た目も華やかで美味しく頂きました。去年の「秋の研修会」で経験した大雄山最乗寺の精進料理は実際に修行僧が食べるような質素な感じのもので、豪華と質素、両方の精進料理を食べさせて頂いた体験は貴重でした。

昼食後は場所を移動して、本研修の講師である駒澤大学学長・長谷部八朗先生の講演を受講しました。長谷部学長先生は修験学が専攻のひとつでもあり、1. 高尾山、2. 高尾山の歴史、3. 高尾山の信仰をめぐる主要な特徴について、同席頂いた薬王院の御上人様の解説とともに講演頂きました。その後、講演でも話題になった「鐘」を見たり、院内を見物した後、長谷部学長先生とはここでお別れし、一同宿泊先の相模湖「天下茶屋」へと向かいました。

お風呂で疲れを癒やし、懇親会で美味しい食事を楽しみながら、お楽しみの抽選会も行いました。今回の景品は、携帯ラジオ、折りたたみヘルメット、ヘッドライトなど防災用品を取り揃えました。参加者同士、大いに親睦を深めた一夜となりました。

11日は、関東三大イルミネーションでも有名な「相模湖プレジャーフォレスト」へ行きました。

様々なアトラクションがある中、私達はリフトで高台へ行き、「観覧車」に乗りました。観覧車からは眼下に相模湖、中央自動車道などが見え、東京・山梨・神奈川の山々を一望できました。その後、レストランで一服し、バスで相模湖駅へ。相模湖駅前、皆の健康を祝して乾杯し、地元のワカサギなどを頂き、解散しました。

思い起こせば高尾山薬王院での護摩祈祷、精進料理、長谷部学長先生の講演、天下茶屋での懇親会、相模湖プレジャーフォレストでの観覧車など、貴重な体験ができました。そして、精進料理の横にあったカードの文字「切磋」が印象に残った研修会でした。



【薬王院本坊前にて記念撮影】

## 駒澤会だより発行第30号に寄せて

駒澤会の会報誌である「駒澤会だより」も2004（平成16）年1月に第1号の創刊号を発行して以来、今号で第30号を迎えました。これもひとえに毎号毎号文章を執筆していただく役員、会員をはじめ、教育後援会等関係各位の皆さまと、製作に携わった「広報部」の尽力、そして何よりもご愛読いただいている読者の皆さまのおかげです。

この1冊を通じて駒澤会の活動をご理解いただき、さらには活動に参加したくなるような気持ちをもっていただけるよう魅力的な情報をこれからも発信いたしたく存じます。



広報部部长 荒井 喜久子

### 大学の近況報告 ～スポーツの秋～

ここ最近の大学の様子をお知らせします。9月より後期の授業が始まり、またキャンパスが学生たちで活気にあふれるようになってきました。秋は体育会の部活動もリーグ戦、大会のメインシーズンであり、硬式野球部やサッカー部、卓球部や男子バレーボール部、ゴルフ部、硬式テニス部など、さまざまな部が好成績をおさめました。駒澤といえば「駅伝」！陸上競技部も無事に箱根駅伝への切符を手に入れ、11月の全日本大学駅伝では4位に着け、年明けの箱根駅伝が今から楽しみです。



【硬式野球部・白銀投手】



【男子バレーボール部】



【サッカー部・室町選手】



【硬式テニス部】



【陸上競技部・片西選手】

写真：駒大スポーツ

## 各部入部のご案内

駒澤会会員の皆さまに、駒澤会の運営に携わる各部への入部をお誘いしています。

会の運営は、以下の3つの部に分かれて活動しています。2～3ヶ月に1度ほどのペースで会議を行っています。

ぜひ一緒に、駒澤会の活動を盛り上げましょう！入部をお待ちしております。

希望される場合は、駒澤会事務局・日幡（ヒバタ）までご連絡ください。

TEL:03-3418-9189/FAX:03-3418-9190

総務部	駒澤会の規程や運営費について検討し、活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。
広報部	会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、様々な意見を出し合い和やかに進めています。
厚生部	会員の皆さまが楽しく有意義な時間を過ごせるよう、各種行事を検討しています。

## 入会者芳名

駒澤会にご入会いただき誠にありがとうございます。新規会員の皆様のご芳名を掲載させていただきます。今回は本年8月1日から11月30日までの期間にご入会いただいた方を掲載します。なお、掲載の同意が確認できなかった方は匿名とさせていただきます。

鯨岡 宏智 様	舛谷 卓志 様	石橋 由子 様	桐畑 秀司 様
玉峰 信夫 様	柴田 進 様	向後 宏 様	岸 忠康 様
匿名 6名			

## 基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会より、前回会報にてご報告した以降の運用状況について、以下のとおりお知らせ致します。

運用先	8月～12月までの利金	備考
野村証券	0円	みずほ・三菱UFJ社債
みずほ銀行	22円	定期預金利息
世田谷信用金庫	2,547円	定期預金利息
合計	2,569円	

基金管理委員会 委員長

## 編集後記

この11月、2年ぶりにタイの古都チェンマイで1カ月を過ごそうと計画しておりましたが、体調芳しくなくドクターストップで渡航を断念いたしました。行けぬとなると尚のこと彼の地への思いがいや増します。タイは【微笑みの国】と言われ、眼を合わす人達の優しい眼差しと口元に慎ましく浮かぶ笑みは、思い出すたび心が癒され、惹かれてしまうのです。

他に対して優しい顔を向けることは【和顔施】と言う布施業だと最近知りました。人口の大半が仏教徒のタイの人々は、微笑みを他に向けて絶やさぬ布施業を、意識することなく日々行っているのですね。

10年ほど前に従兄妹の集まりで「何故いつも眉間に皺を寄せているの?」と言われて愕然としたことがありました。プライドに囚われ、一寸したことに執着し、晴れないモヤモヤを心中いつも抱いていたから、それが顔に現れていたのでしょうか。深く反省させられた言葉でした。

それから十年、眉間の皺は取り除けたのでしょうか。改めて【和顔施】に取り組みなければと深く思わされるこの頃です。

広報部副部長 村田 保 廣

### 事務局からのお知らせ

【大学行事予定】		【駒澤会行事予定】	
12/23~1/5	冬季全学休業	1/3	箱根駅伝応援企画(★)
2/4~8	2月一般入試	1/26	役員会
3/7	3月一般入試	2/9	駒澤会新年賀詞交歓会(★)
3/22・23	卒業式	3/9	役員会

駒澤会ホームページのご案内<駒澤大学ホームページ内>

<https://www.komazawa-u.ac.jp> より

→ 【在学生父母の方】 → 【駒澤会】



駒澤会だより 第30号

発行日：平成30年12月14日

発行者：駒澤大学駒澤会 広報部

〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1

TEL：03-3418-9189/FAX：03-3418-9190